

Title	2023年度 意匠学会作品賞選考結果報告
Author(s)	伊原, 久裕
Citation	デザイン理論. 2024, 84, p. 3-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/97662
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

2023 年度 意匠学会作品賞 選考結果報告

学会賞選考委員会
委員長 伊原久裕

受賞者

上田 香氏

受賞作品

『西陣織による Generative design』

受賞理由

本作品は、西陣織の伝統技法にコンピュータを用いた Generative design の技法を適用することによって、斬新な立体形状のテキスタイルデザインの創出を目指した実験的試みである。この試みの背景として、西陣織の産業の振興という課題があるが、その具体的なアプローチのひとつとして、作者らは2017年に Textiles Summer School を設立し、伝統と革新を融合するさまざまな実験の蓄積を行ってきた。

本作品における特徴となっているジェネレーティブデザインとは、プログラミングを用いてさまざまな条件の下で、多様な立体モデリングを計算によって自動生成するデザイン方法である。作者は、丹後縮緬などで用いられる強撚糸のひとつである八丁撚糸を素材として、西陣織のなかでも金襴（きんらん）と呼ばれる高級織り機による織りにこの技法を応用することで、Processing や CLO3D を用いたシミュレーションによって平面裁断の後で立体となる生地をデザインした。その結果、高級感のある立体造形が可能になったことに加え、平面裁断という技法により、型紙なしの裁断ができること、さらに生地の余りがでないことなど、機能性の面でも良好な結果が得られたことが高く評価される。

また、本作品は海外在住の研究者との共同によって制作されたが、そのために「Miro」などのオンラインのコミュニケーションツールが積極的に活用された。コロナ感染症流行下にあって、その逆境を逆手にとったとも言えるこうした新たな共同作業のあり方も、時期に適うものとして評価された点であった。

選考経緯

今年度は伊原久裕委員、佐藤博一委員、村井陽平委員の3名が作品賞選考の担当者の予

定であったが、村井陽平委員が出品者であったため選考担当から外れた。そこで担当委員の補完として多田羅景太会員，佐々木一泰会員の2名が役員会での承認を経て選考に参画し，4名で審査にあたった。

本作品賞の選考は第65回意匠学会大会におけるパネル発表6件を対象とした。審査はパネル発表会の終了後に実施され，それぞれが個々の作品について意見を述べたうえで，作品賞該当作品の評決を行った。その結果，1名が該当作品なし，他の3名が本作品を選定した。この結果を踏まえ，最終的に合議を経て決定した。

なお，本作品以外に，村井陽平氏と川島洋一氏の「生分解性樹脂を用いたイベント用トレーの開発」，ならびに田畑絵梨奈氏と前崎信也氏の「津軽三味線と漆芸の融合 — KOGEI Next 監修エレキ三味線《Lycoris》—」がそれぞれ賞候補作品として，高く評価された。

展示形式によるパネル発表は，コロナ感染症流行が終息しはじめた64回の大会から再開され，充実した発表となった。今後も多数の独創的，先鋭的な作品の発表をおおいに期待したい。